

2024年度活動概要

談話行動研究会

談話行動研究会では、「語学教育への応用を見据えた語用論的視点からの研究」をテーマに活動している。2024年度は、3月に立教大学池袋キャンパス（オンライン併用）で若手研究発表会を開催した。今回は、会話分析、また、批判的談話分析の立場から新進気鋭の研究者2名を発表者に迎えて、会場、オンライン共々、多くの方々にご参加いただいた。第一発表の並木一美氏は、会話分析の手法を用いて、英語ディスカッション活動における会話連鎖の特徴（学習した表現を使用して順番交代が滞りなく行われていること、また、うなずきや視線など発話以外の資源も活用しながら相互行為を積極的に共構築していること）を明らかにし、第二言語による相互行為能力発達の可能性について問題提起した。第二発表の齋藤浩一氏は、日本の中高生に英語でのコミュニケーションで自信を持たせる方策を探るべく、批判的談話分析の手法で、マルチモーダルなアンケートと学生や保護者への個別インタビューにみる語りから、英語への認識や学校教育がその認識に与えた影響を分析した。海外でのコミュニケーションや、リンガ・フランカとしての英語への認識を通じて、多様な英語変種に触れる機会を増やし、言語的多様性への寛容さを育む必要性を提起した。講演後は、参加者からの質問を契機に発表者との間でより深い議論がなされるなど、充実した研究会となった。次年度は、研究発表会のほか、講演会も企画している。

[第1回談話行動研究会：若手研究発表会]

<プログラム>

研究発表 1：並木 一美 氏（立教大学）

学習者の英語ディスカッション活動における会話連鎖—相互行為能力と教室指導の可能性

研究発表 2：齋藤 浩一 氏（早稲田大学大学院・武蔵中学/高等学校）

English, ideology, and disparity: a narrative case study of Japanese secondary school students' language ideology